

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画

1. 学長による講義
2. 適性検査の実施
3. 人との出会い① 出会いのワーク①
4. 人との出会い② 出会いのワーク②
5. 人との出会い③ コミュニケーション演習
6. 社会との出会い① 社会に出るとは？
7. 社会との出会い② 子どもを取り巻く社会情勢
8. 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
9. 適性検査の結果報告
10. キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
11. 学科教員による講義 将来のためにいますべきこと
12. 自分との出会い① ライフパワーグラフ
13. 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
14. 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
15. まとめとテスト（作文）

授業の方法

講義（聴く）グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる（新聞・TV・ネット）ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とする。

課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
5. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)
6. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その2)
7. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」
8. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
9. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
10. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
11. 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
12. 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
13. 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
14. 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
15. まとめと試験

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。文学に興味がある学生の受講を望む。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②	11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
後藤 磨也子	選択	1	医療系専門学校非常勤講師、スポーツクラブ・幼児教室運営会社勤務		

授業の到達目標

充実した学生生活を送りその後に社会で活躍するためにも、健康や体力増進について知識や理解を深めることは大切な基礎となる。授業中の積極的な身体活動により、日常生活においても運動が習慣化し自己管理するための方法を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

リズムジャンプ（後藤担当）とアジャタ競技（片岡担当）の特徴を生かしながら、個人の体力増進を目指しつつ、グループ活動のなかで他者との関りや個々の役割について考え実行する。この2種の主運動と共に体ほぐしの運動や筋力トレーニング、リラクゼーションなどの方法を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
リズムジャンプとアジャタについて説明。
2. 後藤担当、片岡担当のクラス分けをする
(6回の授業で入れ替わる)
簡易的体力測定と健康状態の把握をする
3. 後藤:運動動作と筋肉の動きを理解してリズム運動を行う。
片岡:ルールの理解と用具の設置の仕後方について
4. 後藤:リズム運動。ウォーミングアップとクールダウンについて。
片岡:ゲーム展開と審判方法について
5. 後藤:リズムジャンプの基本パターンを反復する。
運動強度について。
片岡:投球練習とゲーム
6. 後藤:リズムジャンプの習得。筋力トレーニングについて。
片岡:投球練習とゲーム
7. 後藤:グループでジャンプを組み合わせた創作活動を行う。
リラクゼーションについて。
片岡:投球練習とゲーム
8. 後藤:創作活動の完成と発表。
片岡:投球練習とゲーム
9. 後藤:運動動作と筋肉の動きを理解してリズム運動を行う。
片岡:ルールの理解と用具の設置の仕後方について

10. 後藤:リズム運動。ウォーミングアップとクールダウンについて。
片岡:ゲーム展開と審判方法について
11. 後藤:リズムジャンプの基本パターンを反復する。
運動強度について。
片岡:投球練習とゲーム
12. 後藤:リズムジャンプの習得。筋力トレーニングについて。
片岡:投球練習とゲーム
13. 後藤:グループでジャンプを組み合わせた創作活動を行う。
リラクゼーションについて。
片岡:投球練習とゲーム
14. 後藤:創作活動の完成と発表。
片岡:投球練習とゲーム
15. まとめ

授業の方法

実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修

毎日20分程度、授業で学ぶストレッチやトレーニングをして健康管理に努める。

課題・評価方法

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70% 定期試験30%

欠席について

規定に従う
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト

プリント配布

留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史		11353	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 森嶋外『生田川』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
9. 年中行事 その老 (正月について)
10. 年中行事 その式 (節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事 その参 (夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事 その四 (7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 小泉八雲『耳なし芳一』を読む
14. 戦国時代 遠藤周作『叛逆』・菊池寛『忠直卿行状記』を読む
15. まとめと試験。

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 間違いやすい「敬語」
3. 「敬語の種類」
4. 「日常生活と言葉づかい」
5. 「ビジネス社会における敬語(1)」
6. 「ビジネス社会における敬語(2)」
7. 「修辭法と慣用句」
「さまざまな熟語」
8. 「原稿用紙の用法」
「文章の構成」
9. 「400字・800字の小論文」
「レポート・論文の作成」
10. 「就職活動と書類」
11. 「手紙とはがき(1)」
12. 「手紙とはがき(2)」
13. 「ビジネス文書」
14. 「説明文と推敲の方法」
「敬語」の復習
15. まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回、授業の始めに、前回の授業内容を復習する小テストを行い、次週にフィードバックする。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. 国語の力(読む・調べる・書く)
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 自己紹介
7. 文字の書き方と表記
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. 日本語表現の振り返り、まとめのテスト

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

- 1.〈評論文〉(1)
- 2.〈評論文〉(2)
- 3.〈評論文〉(3)
- 4.〈評論文〉(4)
- 5.〈評論文〉(5)
- 6.〈新聞投稿〉
- 7.〈意見文〉
- 8.〈意見文・説得文〉
- 9.〈意見文・説得文〉
- 10.〈小説〉
- 11.〈小説〉
- 12.〈エントリーシート〉
- 13.〈エントリーシート〉
- 14.〈エントリーシート〉
- 15.まとめと最終レポート

授業の方法

演習が中心の授業となる。新聞投稿などとおして、社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	①/②/③/④		11501	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	必修	2	私立大学非常勤講師			

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験2級の資格取得を目指す。

授業計画

- 1.スキルチェック/入力速度の測定、ウィンドウズの基本操作
- 2.コンピュータの基礎知識/文章編集/フォルダの操作
- 3.コンピュータの基礎知識/ワード基本操作(書式設定)
- 4.コンピュータの基礎知識/ワード基本操作(表作成)
- 5.コンピュータの基礎知識・情報モラルについて/ワード基本操作(表作成)
- 6.ビジネス文書作成
- 7.ワード基本操作まとめ
- 8.日本語ワープロ技能標準試験2級対策
- 9.日本語ワープロ技能標準試験2級対策
- 10.日本語ワープロ技能標準試験2級対策
- 11.日本語ワープロ技能標準試験2級対策
- 12.日本語ワープロ技能標準試験2級対策
- 13.図形練習
- 14.プレゼンテーションソフトの基本
- 15.まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。欠席1回につき6点減点とする。

テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト（授業内で販売）
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

留意事項

テキストは必ず持参すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱでは各自の興味のあるテーマを航空業界、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中から方向性を確立していく。そのため発表演習を中心に置き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指す。後半では全体目標の各チームのツアー立案企画を完成させる。またこのクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）と In（国際性）を養う。

授業の概要

前半に航空業界、旅行業界、宿泊業界を含めたツーリズム全体、またはホスピタリティ産業の中で各自の興味のある業界研究を行い、発表とディスカッションが中心となる。その中で4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を見つけていく。後半では全体目標としての関空発の旅行立案企画を完成させ最終プレゼンをする。なお演習の一環として都合が付く限り企業研究を兼ねて空港・旅行会社などに学外見学を実施する事がある。

授業計画

1. 演習Ⅱのガイダンス。
2. ツーリズム産業の全体像について
3. 観光業界研究の発表と講評
4. 観光業界研究の発表と講評
5. 観光業界研究の発表と講評
6. 観光業界研究の発表と講評
7. 観光業界研究の発表と講評
8. 観光業界研究の発表と講評
9. 関空発海外旅行企画立案その1
10. 関空発海外旅行企画立案その2
11. 各チームの旅行企画立案の完成
12. 各チームの旅行企画立案の発表
13. 各チームの旅行企画最終プレゼンと講評
14. 各自の研究テーマについて
15. 参考文献とまとめ

授業の方法

各自の興味のある企業を航空業界・旅行業界・宿泊業界・ツーリズム産業全体から選択し企業比較をする。その企業についての発表・プレゼンについて講評・質疑応答を中心にする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

各自の企業研究発表、またグループ発表後は担当教員によるフィードバックを行う。

『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は出来ない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著（株）ANA総合研究所（2013）NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2017 第2版）東洋経済新報社
『観光立国日本への提言』編集：長谷川恵一（2016）成文社

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する／英語の韻律（イントネーション）の基本的特徴を理解し実践する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

1. 発表とディスカッション1-1
2. 発表とディスカッション1-2
3. 英語音声の特徴(母音の変化1)
4. 英語音声の特徴(母音の変化2)
5. 英語音声の特徴(母音の変化3)
6. 発表とディスカッション2-1
7. 発表とディスカッション2-2
8. 英語音声の特徴(子音1)
9. 英語音声の特徴(子音2)
10. 英語音声の特徴(音節音素的子音)
11. 英語音声の特徴(音の変化1)
12. 英語音声の特徴(音の変化2)
13. 発表とディスカッション3-1
14. 発表とディスカッション3-2
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

川原繁人『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』（ひつじ書房）
TEX加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』（朝日新聞出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲで各自が研究テーマに設定した航空業界、ツーリズム全般、ホスピタリティ産業について、各自が参考文献や先行事例から現状と課題を明確にしていく。最終的にはテーマに対する自分の考えを明らかにし、卒業研究論文を期日までに仕上げる事を目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。各自が研究テーマについて経過発表をしながらゼミ生相互に情報を共有する。また講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。各自の卒業研究の構成内容と最終の方向性を指導するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが重要である。

授業計画

1. 卒業研究の行程ガイド
2. 各自の研究テーマの途中発表
3. 各自の研究テーマの途中発表
4. 各自の研究テーマの途中発表
5. 各自の研究テーマの途中発表
6. 各自の研究テーマの途中発表
7. 各自の研究テーマの途中発表
8. 各自の研究テーマの途中発表
9. 各自の研究テーマの途中発表
10. 各自の研究テーマの途中発表
11. 卒業研究の仮提出
12. 卒業研究の最終修正
13. 卒業研究の提出
14. 卒業研究の口頭試問(1)
15. 卒業研究の口頭試問(2)

授業の方法

各自の卒業研究テーマの進捗状況の発表と講評を中心にする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

各自の研究テーマ内容の進捗発表では毎回担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

無断欠席は一回につき5点減点する。止むを得ず欠席の場合は必ず当日でも事前に連絡を入れる事。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

期日までに主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。参考文献と資料は早めに準備し内容を精読していく事。原則各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

音声の他、ことばの魅力について調査・分析をする／分析した内容について考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語音声・日本語音声の他、卒業研究のテーマと関連する文献等を調査し、要約をしたり考察をしたりする練習を積む。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する。

授業計画

1. イントロダクション
卒業研究について
2. 文献調査と分析 1-1
3. 文献調査と分析 1-2
4. 文献調査と分析 2-1
5. 文献調査と分析 2-2
6. 文献調査と分析 3-1
7. 文献調査と分析 3-2
8. 文献調査と分析 4-1
9. 文献調査と分析 4-2
10. まとめ
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 口頭試問について
14. まとめ
15. 卒業研究口頭試問

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること（ishihara@kaisei.ac.jp）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）

西田大著、『音読』で攻略 TOEIC L&Rテストで文80』（かんき出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語 その壱
2. 落語 その貳
3. 落語 その参
4. 落語 その四
5. 歌舞伎 その壱
6. 歌舞伎 その貳
7. 歌舞伎 その参
8. 歌舞伎 その四
9. 歌舞伎 その五
10. 狂言
11. 能 その壱
12. 能 その貳
13. 文楽 その壱
14. 文楽 その貳
15. 世界に羽ばたく日本の文化。まとめと試験。

授業の方法

講義が中心となるが、その他に実際に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポートも減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けるのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール
6. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
7. 言語のバリエーション(2): 方言
8. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
9. 言語のバリエーション(4): 社会方言とはなにか
10. 振り返り
11. 言語のバリエーション(5): 黒人英語
12. 言語のバリエーション(6): 国家と言語
13. 言語のバリエーション(7): ジェンダーと言語
14. 言語のバリエーション(8): 年齢と言語
15. まとめ

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

東照二『社会言語学入門（改訂版）一生涯の言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけることも観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。

授業計画

1. 令丈ヒロ子「若おかみは小学生！」
2. 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
3. 斉藤洋「白狐魔記 源平の風」
4. 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
5. 浜田広介「泣いた赤鬼」
6. 菊池寛「三人兄弟」
7. 宮沢賢治「注文の多い料理店」
8. 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
9. 千葉省三「拾った神様」
10. 坪田譲治「河童のはなし」
11. 有島武郎「一房の葡萄」
12. 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
13. 椋鳩十「山の太郎熊」
14. 松谷みよ子「貝になった子供の話」
15. まとめと試験

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

興味のある学生は各担当教員に問い合わせてください。

【アシスタント・ティーチャープログラム】カリフォルニア州トランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

- ・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
- ・期間：春季休暇中10日間以上
- ・委託機関：ライトハウス
- ・担当：佐伯

【イベントコース：まつりインハワイ】「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。

- ・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
- ・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
- ・委託機関：近畿日本ツーリスト
- ・担当：石原

【観光ビジネスコース】ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。

- ・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
- ・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して3～4週間
- ・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人
- ・担当：下田

授業計画

1. 事前学習
2. 事前学習
3. 現地実習
4. 現地実習

5. 現地実習
6. 現地実習
7. 現地実習
8. 現地実習
9. 現地実習
10. 現地実習
11. 現地実習
12. 現地実習
13. 現地実習
14. 現地実習
15. ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。

- ①2～3回の事前学習（英語研修や実習準備など）
- ②現地実習
- ③ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

教員連絡先

saeki@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

異文化を理解し自文化が発信できるグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。過去から現在に至る時間軸での比較文化理解力と多文化間の比較文化理解力を身につけたグローバル人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1. 身近にある異文化理解 その1
2. 身近にある異文化理解 その2
3. 身近にある異文化理解 その3
4. 身近にある異文化理解 その4
5. プレゼンテーション(1)「身近にある異文化理解」
6. プレゼンテーション(2)「身近にある異文化理解」
7. プレゼンテーション(3)「身近にある異文化理解」
8. 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その1
9. 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その2
10. 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その3
11. 歴史的・風土的・地政学的比較文化 その4
12. プレゼンテーション(4)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
13. プレゼンテーション(5)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
14. プレゼンテーション(6)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
15. まとめ

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とそこに生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)、A(自律)やIn(国際性)を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別(ジェンダー)のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

1. 文化と歴史の中の女性
2. 女性のライフコース
3. 女性と教育
4. 女性と労働・女性のキャリア形成
5. 女性と結婚・離婚
6. 女性と出産・子育て
7. ワークライフバランス
8. 女性と暴力
9. 女性とメディア・表現
10. 女性と階層
11. 女性と加齢
12. 女性と病
13. 女性とケア
14. 女性と社会参画・社会政策
15. 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

観光は、新国家戦略として位置づけられ、観光立国を目指す。この観光立国の中心となる産業が、宿泊産業である。宿泊業は民泊、ゲストハウス、旅館、ホテル等多くのカテゴリーからなる。その上で、宿の誕生から、現代のホテル産業までを歴史と経営の観点から学ぶ。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊業のマネジメントを学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。グローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を学ぶ。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

1. ガイドンス
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊産業の市場特性
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. パンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

レポート及び総括試験を総合して評価する。

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

1. 神戸海岸通りと旧居留地
2. 神戸の海岸線
3. 雑居地文化と異人館通り
4. 神戸モダニズム
5. 他地域からの視点
6. ミステリー発祥の地としての神戸
7. 川崎造船所と神戸の町
8. 鈴木商店を支えた女性
9. プレゼンテーション発表
10. プレゼンテーション発表
11. プレゼンテーション発表
12. プレゼンテーション発表
13. 映画に登場する神戸の風景
14. 神戸モダニズムの転換期
15. 神戸と坂の物語

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返

却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2	①/②/③/④/⑤		17421	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
由井 敦子／南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに、「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. こどもの発達と歌唱教材。連弾。
13. こどもの発達と歌唱教材。連弾。
14. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法

- ①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
- ②平常点70％ 定期試験30％
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。
- ③個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC		17437	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。

授業計画

1. 令丈ヒロ子「若おかみは小学生！」
2. 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
3. 斎藤洋「白狐魔記 源平の風」
4. 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
5. 浜田広介「泣いた赤鬼」
6. 菊池寛「三人兄弟」
7. 宮沢賢治「注文の多い料理店」
8. 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
9. 千葉省三「拾った神様」
10. 坪田譲治「河童のはなし」
11. 有島武郎「一房の葡萄」
12. 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
13. 椋鳩十「山の太郎熊」
14. 松谷みよ子「貝になった子供の話」
15. まとめと試験

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

平常点70％、定期試験30％で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。